



図2. マイクロアレイ法による卵質診断

使用した DNA チップには、約 1200 種類の良質卵関連遺伝子が点状に貼り付けてある。実験では、まず「良い卵」ならびに「悪い卵」からそれぞれ mRNA を抽出し、これをもとに蛍光色素標識した遺伝子 (cDNA) を合成した。次に、これら標識された遺伝子を混合して、DNA チップに貼り付けた良質卵関連遺伝子との間で結合させる反応を行った。反応後、結合したそれぞれの蛍光色素量を測定することで、遺伝子量の相対値の算出を行った。図中の緑色に検出された良質卵関連遺伝子は、良い卵と比較して悪い卵で遺伝子量が相対的に低いことを示す。すなわち、この遺伝子が良質卵の指標となりうることを示している。